SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

静岡のローカル指標づくり

Think globally Act locally

まぁるいしずおか あなたも参加してください！

①＃での投稿で参加しよう！

指定の＃をつけて twitter、Facebook、Instagram で投稿してください！

①-1. みんなのありがとうキャンペーン
→「＃まあるいしずおか」「＃ありがとう」をつけて、ありがとうを共有してください。

①-2. マイ容器チャレンジを広めよう
→「＃ マイ容器チャレンジ in 静岡」とつけてテイクアウトの際などマイ容器を持参したことを投稿してください！

マイ容器チャレンジ

①-3. みんなの環境アクションを集めよう
→「＃ まあるいしずおか」＋「＃地球」をつけて、家庭でできるゴミの削減、CO2 削減、環境に配慮した商品の購入などのアクションを投稿してください！

①-4. みんなのパワーシフトを報告しよう
→「＃ まあるいしずおか」＋「＃パワーシフト」をつけて再生可能エネルギーの電力会社への切り替えを報告してください！※期間前に契約切り替えしたご家庭でも OK です。

→投稿は集計してプロジェクトサイト内で投稿数などを報告します。

②活動をフォームから報告してください！

つながりの場についての活動
家庭、学校や職場とは別で、オープンに参加でき、参加者の動きの自由度が比較的高く、参加者同士が交流しやすい場

地域をきれいにする活動
川辺や海岸、街中など、誰でも自由に参加できる清掃活動

それぞれの学びの活動
静岡の魅力を知る活動、多様な存在について知る活動、世界のことを知る活動

QR コードからフォームにアクセスいただき、必要事項を入力してご報告ください。
投稿は集計してプロジェクトサイト内で投稿数などを報告します。

活動報告フォーム　プロジェクトサイト

静岡のローカル指標づくりプロジェクト

企画・運営：しずおか SDGs ネットワーク・静岡市番町市民活動センター
冊子：デザイン 安倍沙織（デザインオフィス えも）
発行：木下 聡・五味響子（静岡のローカル指標づくりプロジェクト）

～この冊子は（公益財団法人）静岡県労働者福祉基金協会、
（一般社団法人）SDGs市民社会ネットワークの助成をいただき作成しました～

SDGs とは

SDGs は Sustainable Development Goals の略で、「持続可能な開発目標」と訳されています。これは、世界から貧困をなくし、将来世代にとっても豊かで暮らしやすい地球環境を残すために、続かない今の社会・経済の仕組みを続く形に変革するために掲げられた 17 の目標です。

静岡のローカル指標づくりプロジェクトの背景

課題	SDGsの認知度は高まってきたが、実際の取り組みは進んでいない、あるいは進んでいるかどうかがわからない。
要因	・国連の目標と言われると、どこか遠い世界のことに感じられ、自分ごととして捉えにくい。 ・身近にできる1歩が示されても、それによって社会が改善していることを実感しにくい。
必要	・持続可能な社会について静岡をベースに捉え直す、ローカライズが必要。 ・参加したことで、前進したことが見えるような指標が必要。

この指標の特徴

・この静岡のローカル指標「まぁるいしずおか」は、静岡に住む市民一人ひとり、及びつながりをつくって行動するみんなを対象にしています。個人が知り、行動することの先に「みんなで行動する」ことを見据え、その広がりがやがて地域社会を変え、国を変え、世界を変える原動力になると信じています。

・策定には多くの方にワークショップの形でご参加いただきましたが、あくまでみなさん一市民としてご参加くださいました。そのため、この指標はあくまで市民目線で策定されたものであり、その意味での偏りがあることは予めご理解いただきたいと思います。

策定で大切にしたこと

・参加した方々が出してくださった思いやキーワードを土台にして構築すること。
・個人の取り組みで終わらせず、広がりを持たせられる仕組みにすること。
・網羅的であることよりも、分かりやすさや静岡らしさを念頭に置いて絞り込みを行うこと。
・社会の変化を見るための統計に基づく指標と行動を可視化して促す指標の両面を設定すること。
・地域内に閉じてしまわないように世界にも目を向けられる要素を入れること。
・今回の期間にメンバーでできたものを、まずは形にすること。
・今回できなかった部分をしっかりと示し、今後さらに様々な方々に参加いただいて改善していくこと。

静岡のローカル指標づくり

プロジェクトの流れ

Step1

静岡の未来図を描こう！

参加者それぞれに静岡の未来はこうあって欲しいという将来像を語ってもらい、ペアワーク、グループワークを通じてその将来像におけるキーワードを抽出しみんなで共有し合いました。そのキーワードが今回の指標作りの土台になっています。(全2回開催、のべ32名参加)

Step2

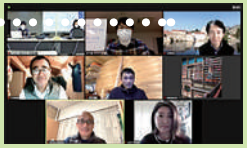
テーマ別ワークショップ

STEP1で出たキーワードを基に5つのテーマを設定し、ゲストを招いてテーマに沿った静岡での活動についてお話をうかがいました。各回のテーマに関する学びに加え、5回を通じてテーマごとの関連性や共通するポイントなどが見えてきました。(全5回開催、のべ66名参加)

Step3

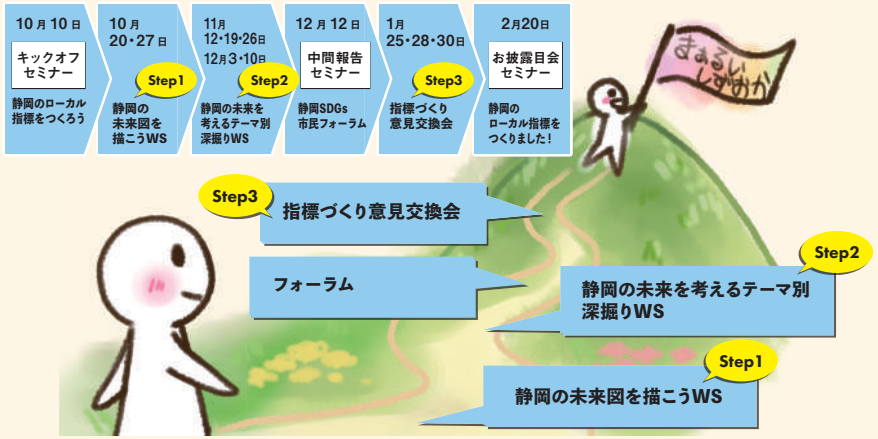
指標づくり意見交換会

指標の素案をたたき台にして、良い点、足りない点などをみなさんからご指摘いただきました。多くの人の目で確認いただくことで、たくさんの気づきを得ることができました。感染症対策で残念ながらオンラインのみでの開催としました。(全3回開催、のべ14名参加)



静岡SDGs市民フォーラム

STEP1と2を終えた段階でゲストスピーカーを招いて開催。SDGsの成り立ちから現在地点までの流れの確認、地域指標についてのアドバイス、静岡市の取り組みなど、様々な角度からお話をうかがい、指標作りの参考にさせていただきました。(会場22名、オンライン14名参加)



みんなで目指す静岡の未来像

まぁるい しずおか

しずおかの人と自然が持つ魅力を守り、育てるサイクルができることで、災害に強く、それぞれの個性が生きる、持続発展性のある社会

・「まぁるい」は、参加者の皆さんの目指す社会の言葉やキーワードから抽出した「人のつながりを表す輪」と、水の循環を示す「環」の両方を象徴する言葉としてキャッチフレーズとしました。
・将来像の多くは現状の静岡の良さ（人の温かさ、自然の豊かさ）を認め、伸ばしていくイメージのものが多く挙げられたため、２つの柱としました。
・子どもや将来世代に目を向けた言葉も多く挙げられ、2030年を到達点というよりも、それ以降に向けた仕組みづくりというイメージを持たせました。
・静岡は防災への関心が高いため、目指す未来像に必要な要素として焦点を当てました。
・「人の魅力」の内に、それぞれの多様性を認め合うという要素を加え「個性が生きる」としました。

目標１ つながりの輪が育っていく社会

・参加者の考える、「将来に残したい魅力」の一つが静岡に住む人の人柄だったため、温和で優しい心根が生かされ、伸ばされる社会を目標としました。
・STEP2の５回のワークショップを通じ、自然との共生や循環型経済、まちづくりや多様性など多くのテーマには共通して「人とのつながりの大切さが根底にある」との気づきがありました。

目標２ 水を巡る環境を守り育てる社会

・参加者の考える、将来に残したい魅力の一つが山・川・海という自然の豊かさだったため、それらをつなぐ要素として「水」に焦点を絞り、その循環に思いをめぐらせ、守っていく社会を目標としました。
・日本有数の清流である安倍川は美味しい静岡市の水の源となっており、その支流の藁科川や、中河内川、興津川など、多くの人々が憩い遊ぶ水辺にも恵まれていることが静岡の一つの特徴。川の源である山・森林の大切さや、流れこむ海の資源を守ること、また時として水害を招くという側面など、水と川を起点に暮らしのあり方を考え直す。

目標３ もっと知ることから始めよう

・STEP2の５回のワークショップを通じて、静岡に住みながらも知らない「静岡の魅力」がまだまだたくさんあるという気づきも多く、「まず行ってみる」や、「知って、伝える」などのコメントも多くみられたため、目標３として知ることを加えました。
・静岡のことだけでなく、SDGs を念頭に置いて世界が直面する様々な課題を知ることも重要です。世界の今を知り、私たちの暮らしとどのように繋がっているか考える機会が必要です。

さて、2020 年時点を示す統計データをみてみましょう

●静岡市は災害に強く、安心・安全に人が暮らせるまちだと思いますか？
『そう思う』 59.8%　『そう思わない』32.1%
●静岡市は子育てしやすいまちだと思いますか？
『そう思う』 53.7%　『そう思わない』27.2%
●静岡市は障がい者や高齢者にやさしいまちだと思いますか。
『そう思う』40.9%　『そう思わない』41.2%
出典：令和２年度市民意識調査「市民満足度調査」（静岡市）

●悩みごとの相談相手に関して「いない」と答えた割合　※カッコ内は前回平成 25 年調査の値
・小学生　17.9%（9.2%）　・中学生　13.2%（11.3%）
・高校生　8.4%（10.6%）・青　年　17.3%（19.2%）
出典：「静岡市子ども子育て若者プラン」内「静岡市子ども・若者実態調査（平成 30 年）」

●河川の水質
安倍川：上流 AA→下流 AA　藁科川：AA　興津川：上流 AA→下流 B　巴川：C
令和元年度公共用水域水質測定結果（令和２年12月）

●自然を守るために実行していることはありますか
・旬の食材や、自分が住んでいる地域でとれたものを食べる　52.6%
・省エネなど温暖化防止に配慮したライフスタイルを心がける　42.1%
・特に行っていない　14.6%
→理由：何をすればよいか、どのような行動があるのかわからない　53.5%

●静岡市が実施している施策で、あなたが現在参加している活動や、今後参加してみたい活動はなんですか。
・河川･海岸における清掃活動　24.3%　・学習会や自然観察会　8.3%
・特にない　45.3%
出典：令和２年度市民意識調査「生物多様性」（静岡市）

●静岡市は世界中から人が集まる魅力あるまちだと思いますか。
『そう思う』 30.9%　『そう思わない』62.8%
出典:令和２年度市民満足度調査(静岡市)

●地産地消に関連する参考情報：支出流出入率（民間消費）
（※地域内の所得に対する支出の割合、マイナスだと支出が地域外に流出している傾向）
2015 年　静岡市：−2.3%　浜松市：−0.6%　静岡県：−7.5%
出典：RESAS - 地域経済分析システム

●自分の住む地域に外国人が増えることを歓迎する割合
静岡県 12.7% →歓迎しない 77.9%（全国 42 位）
出典『全国データ SDGs と日本』（2018 年アンケート調査結果）

●主要な国際支援団体への寄付者数
静岡県　0.94 人 (人口 10 万人あたり）（全国 11 位）
出典『全国データ SDGs と日本』（日本 UNHCR 協会など人道支援、国際協力を行う主要な国際支援団体への寄付人数：2017 年）

つながりの輪が 育っていく社会

ターゲット

①身近な人とのつながりを大切に

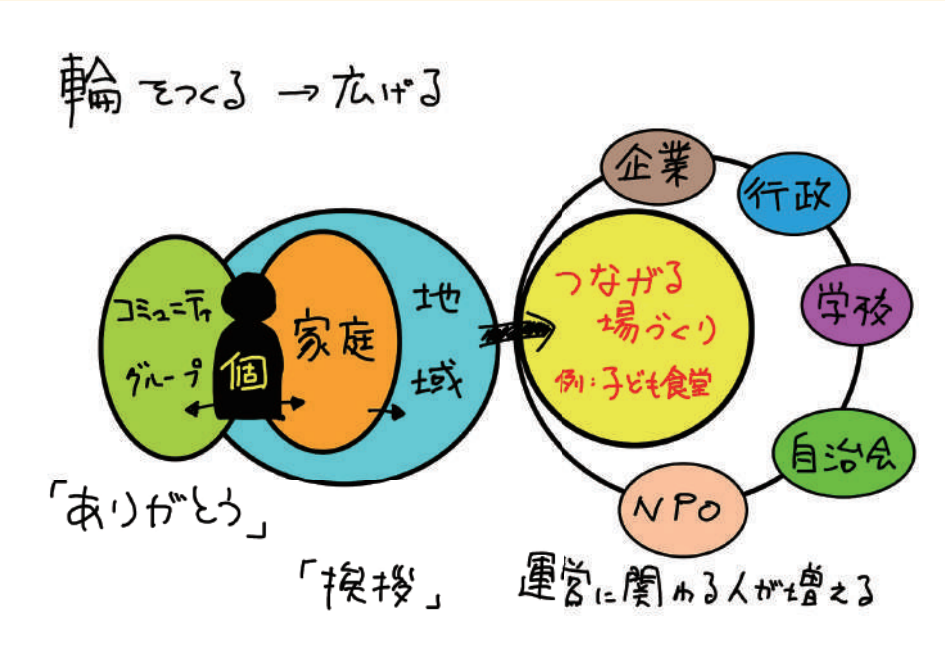
家庭、学校、職場、近所の方など、日々顔を合わせる身近な人との関係性をまず一番に。

②つながる場をたくさん、多様に

身近な人とは別に、多くの人と接点をもてる場所・機会が存在することは人の孤立を防ぐ。

③つながりの輪を広げよう

つながりの場が多様な主体によって運営され、支えられることが持続可能な地域社会の構築に必要。



行動と指標（目指すところ）

①身近な人とのつながりを大切に

①−1. まず朝に気持ちのいい挨拶を交わそう

①−2. 一日 10 回「ありがとう」を言おう

集計 みんなのアクションを集めよう
2021 年4月〜9月の間、twitter、Facebook、Instagram で「# まあるいしずおか」+「#ありがとう」をつけて毎月 500 件の「ありがとう」投稿を目指そう！

②つながる場をたくさん、多様に

②−1. 子どもたちのためのつながる場を増やそう

②−1− a. 子ども食堂が増える→ 例 17 校区、16 食堂（NPO法人静岡市こども食堂ネットワーク）

②−1− b. 子ども支援者ネットワークマップ掲載団体が増える→35 団体（2015 年）
（NPO 法人子育てサークルネットしずおか／ NPO 法人 place of peace）

②−2. 多様なつながりの場を作ろう

②−2− a. オンラインのつながり場が増える
例 ・オンライン縁側　・日本語サロンいろり(NPO法人ESUNE)

②−2− b.SDGs宣言事業者の活動→2021年2月現在16件（しずおかSDGsネットワーク調べ）

集計 つながりの場の情報集約
フォームから「つながりの場」の情報を報告してください！集約してサイトで共有します。(冊子裏表紙参照)

③つながりの輪を広げよう

③−1. つながりの場を支える輪を広げよう

③−1− a. 様々な主体が子ども食堂の運営を支える
例 協力企業 19 社　個人寄付 70 名（資金･物品）、その他（JA、漁協、自治会、議員、クラウン、アーティスト、学校など）（NPO 法人静岡市こども食堂ネットワーク）

③−2. 防災のつながりの輪を広げよう

③−2− a. 防災団体のネットワークが広がる
→2021年2月現在　葵区、駿河区、清水区の3区にネットワーク5団体･参加人数約100人

水を巡る環境を 守り育てる社会

ターゲット

①水や自然を汚さない暮らし

毎日使い、流している水。なるべく汚さないよう生活習慣を見直してみましょう。

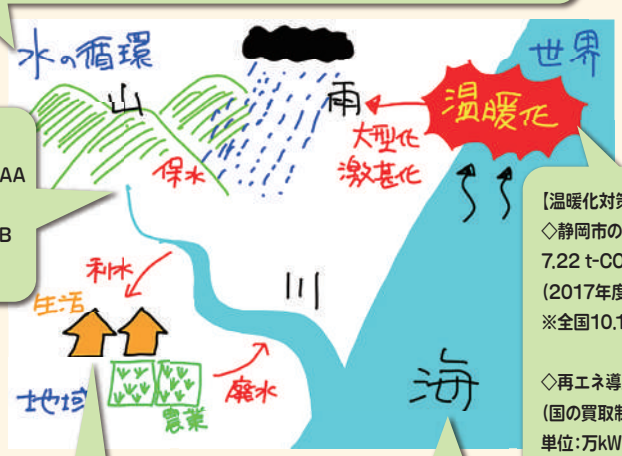
②地域をきれいにしよう

自分の家庭だけでなく、まちレベルで水を汚さない活動を進めていきましょう。
まちのゴミはやがて川、そして海に流れていくことを想像しましょう。

③地球もきれいにしよう

地球規模では、プラスチックの海洋汚染が深刻だったり、気候変動で台風が大型化し、日本も毎年のように大きな水害に見舞われています。そうした視点も忘れずに。

【森林整備の課題】 静岡市森林面積の大部分を占める民有林の44%が人工林で、人工林の80%超が標準伐期齢を超えている



【静岡の川の水質】
安倍川：上流 AA→下流 AA
藁科川：AA
興津川：上流 AA→下流 B
巴　川：C

【温暖化対策】
◇静岡市の温室効果ガス排出量
7.22 t-CO2/一人当たり
(2017年度確定値)
※全国10.19 t-CO2/一人当たり

◇再エネ導入量
(国の買取制度適用)
単位:万kW(1788自治体)
浜松市　1,137,912(全国1位)
富士市　396,318(全国35位)
静岡市　317,935(全国53位)
(情報提供 スマートブルー株式会社)

【一人1日あたりのごみ排出量】
静岡市 は増加傾向
2016年 944g →2017年 928g
→2018年 935g →2019年 940g
全国平均918g(2018年)を上回る

【桜エビ資源量(卵の実数)】
2018年 調査1日あたり 57粒
2019年 調査1日あたり 11粒
2020年 調査1日あたり 18粒
※蒲原沖

行動と指標(目指すところ)

①水や自然を汚さない暮らし

①−1. 生活から出る排水を見直そう

①−2. プラスチックの使い捨てを減らそう

集計 マイ容器チャレンジを広めよう
「マイ容器チャレンジ」
テイクアウトの際などマイ容器を持参して 「# マイ容器チャレンジ」とつけて twitter、Facebook、Instagram で投稿してください!

②地域をきれいにしよう

②−1. 地域の清掃活動が活発に

②−1−a. 清掃活動の回数、参加者数
例 安倍川のお掃除(毎月1回、20名前後参加)

②−1−b. SDGs 宣言事業者の活動
→2021年2月現在 33件(しずおかSDGsネットワーク調べ)

集計 清掃活動の情報集約
フォームから清掃活動の情報を報告してください!集約してサイトで共有します。(冊子裏表紙参照)

③地球もきれいにしよう

③−1. 地球環境のことを考えた暮らし

集計 みんなのアクションを集めよう
2021年4月〜9月の間、twitter、Facebook、Instagram で「# まあるいしずおか」+「#地球」をつけて家庭でできるゴミの削減、CO2 削減、環境に配慮した商品の購入などのアクションを投稿し、毎月 500 件を目指そう!

③−2. 再生可能エネルギーに切り替えよう

集計 みんなのパワーシフトを集めよう
2021年4月〜9月の間、twitter、Facebook、Instagram で「# まあるいしずおか」+「#パワーシフト」をつけて再生可能エネルギーの電力会社への切り替えを報告してください!
※期間前に契約切り替えしたご家庭でも OK です。

もっと知ることから始めよう

ターゲット

①地元静岡の魅力をもっと知ろう

→地元地域を改めて見つめ直し、ないもの探しよりあるもの探しをしてみましょう。それは結果的に地産地消を促し、循環型経済を進める第1歩になるのではないでしょうか。

②多様な個性をもっと知ろう

→自分が当たり前に生活できる社会が、誰かにとって生きづらい社会かもしれない。自分もいつその立場になるかわかりません。その想像力を得ることは優しい社会を作る担い手となる第1歩だと考えます。

③世界のことをもっと知ろう

→私たちの日常は世界と繋がっています。地元のことと同時に世界に目を向ける視野を持ちましょう。

行動と指標（目指すところ）

①地元静岡の魅力をもっと知ろう

①ー1. 静岡の歴史、特産品、郷土品などを知る機会が増える

②多様な個性をもっと知ろう

②ー1. 多様な存在や、生きづらさを感じる社会の仕組みなどについて知る機会が増える

③世界のことをもっと知ろう

③ー1. 日常を世界規模の視点で捉え直す機会が増える
(Think Globally Act Locally!)

集計 各種イベント・セミナー等の情報集約
フォームからそれぞれの知る機会の情報を報告してください！
集約してサイトで共有します。（冊子裏表紙参照）

静岡のローカル指標づくり

今回のプロジェクトを振り返って

①参加者の多様性

→今回のプロジェクトは主催団体の声の届く範囲での呼びかけにも関わらず多くの方々が参加してくだいました。ただ、若者や、障がい者、日本以外の国籍の方や今の社会に生きづらさを抱える当事者の方などの参加が少なく、耳を傾けるべきすべての方々にアプローチできなかったことは、反省点として捉え、今後の指標の見直しに際して改善していきたいと思います。

②経済的側面について

→SDGs は「環境」「社会」「経済」の3側面の調和を非常に重視しており、その点では、今回の指標はバランスを欠く形になりました。今回プロジェクトで大切にしている参加者の声に向き合うと、経済の要素は「つながり」と「環境」の先にあると感じられたため、その印象を反映させた形になりました。

③期間と STEP

→このプロジェクトは 2020 年 10 月から 2021 年2月の約5ヵ月間で3つの STEP を経てローカル指標を策定しようという試みでしたが、もっと時間をかけ、多くの STEP を皆さんと積み重ねながら進めるべきだったと思っています。その点については今後、見直しの作業に取り組む中で補っていきたいと思います。

静岡のローカル指標プロジェクト WS 参加者

小田育也／八木宏晃／原田陽子／坪井建憲／内堀敦康／杉山純代／石川真由美／川合和彦／佐藤純一郎／大石正夫／本多鶴霓／菊池崇弘／深澤邦洋／鈴木梅夫／藤浪千枝／小野和代／大村優太／山田久美子／浅羽紀之／門奈哲也／倉田明紀／千代幸嗣／金井将昭／井上泉／渡辺昌教／永田雅俊／宮澤星　（お名前掲載の許可をいただいた方のみ）

★Special Thanks

スマートブルー株式会社 塩原太一郎 様／一般財団法人CSOネットワーク 長谷川雅子 様／一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク 稲場雅紀 様／静岡市企画局企画課 稲葉博隆 様／しずおか流域ネットワーク 原隆一 様／麻機遊水地保全活用推進協議会 小野厚 様／丁子屋 柴山広行 様／一般社団法人草薙カルテッド 山本洋平 様／心臓病の子どもを守る会静岡県支部 大石裕香 様／グラフィックレコーダー 増田彩香 様